

# 展示構成

※会期中、一部作品の展示替えを行います

## 第1章 始動：第3の洋画団体誕生

小杉放菴、山本鼎、梅原龍三郎、岸田劉生、三岸好太郎ほか

## 第2章 展開：それぞれの日本、それぞれの道

森田恒友、足立源一郎、萬鉄五郎、林俊衛ほか

## 第3章 独創：不穏のなかで

石井鶴三、木村荘八、長谷川潔、鳥海青児ほか

## 第4章 展望：巨星たちと新たなる流れ

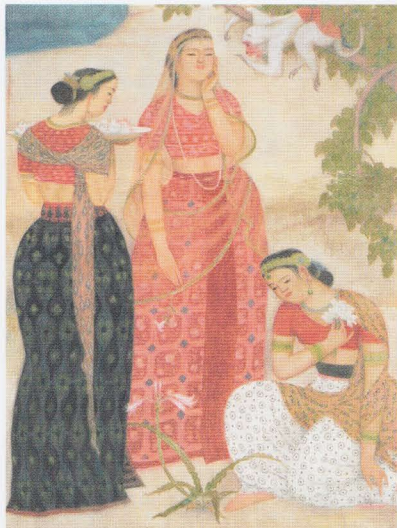
駒井哲郎、岡鹿之助、中川一政ほか

春陽会は一九二二(大正一一)年に、再興院展洋画部から脱退した小杉放菴、山本鼎、森田恒友らと、草土社の岸田劉生らを中心としたメンバーにより、洋画界を代表する第三の団体として発足しました。それぞれの画家の個性を尊重する自由な会風のもと、油彩だけではなく、版画、水墨画、素描、新聞挿画がジャンルの隔てなく出品されます。また、次世代の育成をも念頭に置いた芸術研鑽の場を全国的に展開し、今日に続く春陽会の基盤を固めました。本展では、日本近代美術史を語るうえで欠かせない著名な画家たちに彩られた草創期から、一九〇〇年代後半までの約二〇〇点をご紹介します。

# 春陽会誕生100年

# それぞれの闘い

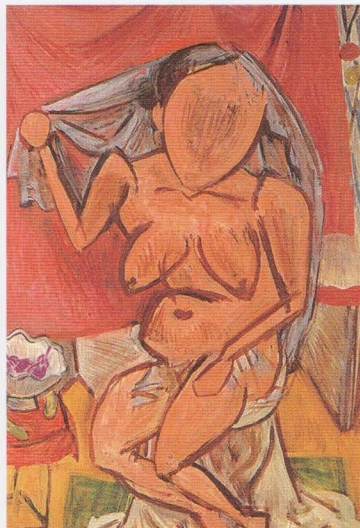
岸田劉生、  
中川一政から  
岡鹿之助へ



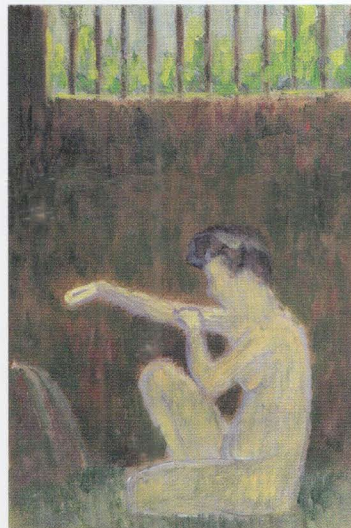
01.



02.



03.



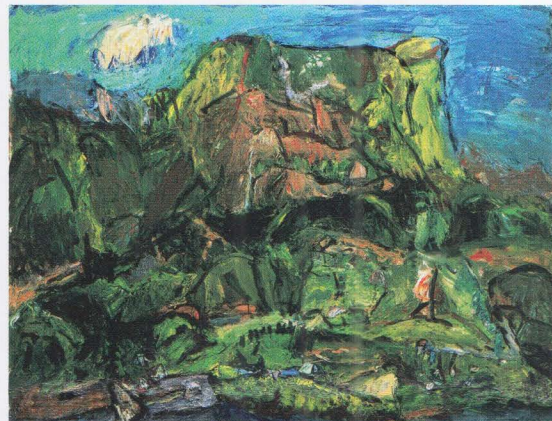
04.



05.



06.



07.

01.小杉放菴《羅摩物語》1928年 東京国立近代美術館/02.駒井哲郎《孤独な鳥》1948年 世田谷美術館/03.萬鉄五郎《羅布かつく人》1925年 岩手県立美術館/04.石井鶴三《温泉》1926年 東京藝術大学/05.岸田劉生《童女図(麗子立像)》1923年 神奈川県立近代美術館/06.木村荘八《私のラバさん》1934年 愛知県美術館/07.中川一政《駒ヶ岳》1973年 真鶴町立中川一政美術館

【関連イベント】①クロストーク1「春陽会と信州—鹿苑会を中心に」3月16日[土] 14:00~15:00/会場:本館B1Fホール/定員:100名/登壇者:入江観(洋画家・春陽会第100回展記念事業実行委員長)、浦野吉人(洋画家・春陽会会員)、土方明司(川崎市岡本太郎美術館館長)、原田光(岩手県立美術館元館長)、松本透(当館館長) [司会/鈴木幸野(当館学芸員)] /参加費:無料(要観覧券・事前申込不要) ②クロストーク2「上田・小県洋画史と春陽会」4月27日[土] 14:00~15:30/会場:本館3Fレセプションルーム/定員:40名/登壇者:小笠原正(上田市立美術学芸員)、日向大季(東御市梅野記念絵画館学芸員)、鈴木幸野・古家満葉(当館学芸員) /参加費:無料(要観覧券・事前申込不要) ③担当学芸員によるギャラリートーク 4月20日[土] 14:00~/参加費:無料(要観覧券・事前申込不要)

【次回展情報】「生誕150年池上秀畝 高精細画人」2024年5月25日[土]~6月30日[日]



【交通アクセス】長野県立美術館には一般来館者のための駐車場はございません。併設の東山魁夷館北側の駐車場は、大型バス、障がいのある方など信州パーキングパーミット制度にて指定の専用駐車場です。公共交通機関のご利用を推奨いたします。

[1] JR長野駅善光寺口バス乗り場①から、アルピコ交通バス11系統「善光寺」由宇木行、16系統「善光寺・若槻団地」由若槻東条行、17系統「善光寺・西条」由若槻東条行で「善光寺北」下車(所要時間約15分)。バス進行方向徒歩3分。[2] JR長野駅善光寺口バス乗り場①から、善光寺行き「びんずる号」で「善光寺大門」下車(所要時間約13分)、表参道を善光寺本堂方向に歩き、本堂を右方向、城山公園へ徒歩10分。土日祝日は「城山公園前」下車。[3] 長野電鉄「善光寺下駅」より徒歩約15分。

〒380-0801 長野市箱清水1-4-4  
電話=026-232-0052  
<https://nagano.art.museum/>



**NOM** 長野県立美術館  
Nagano Prefectural Art Museum